

令和4年10月19日

調査・研修報告書（会派個人用）

会派名： 里山みらい会議

報告者： 坪田 朋人

実施場所： 鹿児島県霧島市牧園町 （第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会）	実施日： 令和4年10月6日、7日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 本市では、比婆牛振興を推進し、令和元年にはG I登録が行われた。だが、購入できる場所が限定的であったり、肉牛として、種牛としての認知度等も十分であるとは感じられない。比婆牛について今後のさらなる発展、また振興等について学ぶため、第12回全国和牛能力共進会鹿児島大会での調査を行った。	
■参考とすべき事項 他県や他地域では品種改良が継続的に行われており、魅力的な品種が誕生し注目されていた。また、今回会場となった鹿児島県や、前回会場の宮崎県、次回開催の北海道などでは、高校生が情熱を持ち種牛の肥育を行っていた。また、それに地域の畜産関係者などが協力し、今後の畜産を自分たちが支えていくといった気概が感じ取れた。広島県も出場している高校があり、十分な気概が感じられたが、結果が伴っているとはいえなかった。 現地調査後において、今回の和牛共進会の広島県参加者などからは、広島県の現地での参加者や牛の扱いや、品種改良についても今後の課題であるとの意見もあった。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） 比婆牛としての位置づけが大切である。新たな品種を求める声や、比婆牛にこだわるのは難しいなどの声もある。庄原市と畜産関係者、食肉関係者等、さらには高校生とが一体となり方向性を示し、進むことがブランディングになり、延いては持続可能な比婆牛の実現につながると考える。 今回の声からも、行政、関係団体、畜産農家などが連携を行うことで、会場でのスムーズな広島県としての運営につながることと考える。日頃からの連携により、比婆牛振興、さらには広島県の和牛振興にもつながると考える。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。